

まきどき・植えどき・収穫どき
どきどき情報

4月

●野菜の作業

種まき・植え付け	栽培管理のポイント	
<p>播種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・コマツナ ・ブロッコリー ・シュンギク ・チンゲンサイ ・ニラ(株分けも) ・サヤエンドウ ・パセリ ・セルリー ・キャベツ、レタス ・ニンジン ・露地用果菜類、シソ等 <p>植え付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレイショ ・ウド、ミョウガ 	<p>【アスパラガスのは種】</p> <p>露地アスパラガスは平均気温が12℃を越える頃から、一斉に萌芽伸長し収穫量が増加してきますが、土壌が乾燥状態になってしまうと萌芽性がかなり低下するので定期的に灌水し、適湿度を保っていく必要があります。</p> <p>また、4月下旬～5月の中旬にかけては、は種の適期になります。地床育苗では、水はけの良い場所に1㎡当たり堆肥2kg、化成50gを施し、極浅い溝を切り3cm間隔で種を播きます。種は播く前に30℃くらいのお湯に3日程度つけてから播き、後はビニールで覆って地温を上げます。</p> <p>15～20日程度で芽が出ますので、ビニールを取り除き草丈10cmで、株間10cmになるよう間引き管理します。</p> <p>【ニンジンのは種】</p> <p>ニンジンは根の短いものほど早生で、は種は3～7月まで播けます。ニンジンは肥料やけを起こしやすく酸性に弱いので、肥料は全面に散布しよく耕し、畦の間隔を80cm程度で、畦幅70cm程度の畦をたて畦たて後10日後には種します。</p> <p>は種は畦の中央に3cm程度の溝を切り水をくれて土を落ち着かせてからは種し、薄く覆土します。2条播きの場合、条間20～35cm、株間8～15cmで夏場は鎮圧し、切りワラ等をかけ、乾燥させないようにします。間引きは、本葉2～3葉ではじめ、草丈3cmで7～8cm、同10cmで15cm程度とします。</p>	

●定植時における省力・効果的殺虫剤の使い方

苗の定植時に関係しての殺虫剤(粒剤)の使用法としては、定植時の植え穴処理土壌混和方式や育苗期後半又は定植前日～定植当日などの株元散布といった方法があり、省力的であることや効果の安定性などに優れる等のメリットがありますが、今回はプラグ苗における使用法の事例を紹介します。

【プラグ苗(セル苗)】の定植時における処理方法

プラグ苗による使用としては、定植前日～定植当日や育苗期後半の株元散布等による方法があります。実際の使用法としては、セルトレーに所定の分量の農薬(粒剤)をできるだけ均一に散布し、葉に付いた粒を軽く払い落とすうえで軽く散水をするといったものです。

使用量は、品目・適応害虫・薬剤等によって異なりますが、おおむね1株当たり0.5～1.0g(場合によっては1.0～2.0g)の薬剤が多いと思われます。したがって、128穴のトレーを使用している場合は、1トレー当たり100gの農薬を散布すると基準内(0.5～1.0g)での散布になります。

なお、農薬の分量は「秤」等で確認しながら使用し、無駄の無いように使ってください。

そして、一番関心のあるところとしては、**「プラグ苗(セル苗)処理方法 定植前日～当日に散布」**

その効果や持続性ですが、葉裏に隠れた害虫にも効果があることや天敵やハチに影響が少ないなどの特徴があり、薬剤の種類や季節にもよりますが、20日～1ヶ月程度の効果が期待でき、それ以降は慣行の防除体系による防除を行うことにより農薬の使用回数の低減にもつながることが可能となります。



(日本曹達㈱モスピラン粒剤製品情報資料から引用。)

*安全・安心講習会の折に、農薬の「ひとつまみ」はおおむねどのくらいの量かといった話がありましたが、私の三本指でのひとつまみは、約0.5g(農薬の種類によっても異なると思われますが。)でした。

「植え穴処理」などで定植する場合などは、自分なりに目安をつくって効率よく作業をすすめていただきたいと思います。(ちなみに、ペットボトルのキャップ1杯では約7gの粒剤が入りました。)



農業豆知識

ビニールの基礎知識

最近農ビから農PO（ピーオー）と呼ばれるポリオレフィン系特殊フィルムへと変わってきています。このPOフィルムの特徴を農ビと比較すると利点として可塑剤を含まないためべと付かず軽く、強度も高く、低温でも柔軟性があまり変わらない特徴があります。現在は農ビが主体ですが、主な種類の特徴については以下の通りです。

1 一般農ビ

- (1) 透明フィルム・・・光線透過が良く、温度上昇が早い。
- (2) 梨地フィルム・・・フィルムの表面にエンボス処理を施し、光線透過を調整させる。
- (3) 無滴性・・・流滴剤を混入させているため、水滴をフィルムの沿って流下させる。
- (4) 有滴性・・・フィルムに水滴を付着させることで、光線透過の抑制と温度上昇を遅らせ、昼夜温度差を少なくする。

2 防塵農ビ

特徴・・・一般農ビ及び防霧農ビの片面にアクリル樹脂をコーティングしたもので、埃が付きにくく、2～3年の長期張りも可能です。但し一部には紫外線吸収剤入りのものもあり、着色を必要とする作物には注意します。

3 ポリフィレン系特殊フィルム

特徴・・・べたつきや汚れ・耐寒性棟に優れていますが擦れにはやや弱い面を持っています。また農ビよりも軽いため張替えなどの作業性に優れています。

4 防霧農ビ

特徴・・・一般農ビに防霧処理を加えたもので、内側に水蒸気を吸着させて、水晶水としてフィルムに沿って流下させます。

5 専用農ビ（光線選択農ビ）

特徴・・・イチゴ・ナス用には果実のアントシアンの着色やミツバチの交配に適したものと紫外線カット着色農ビがあります。

6 保湿性強化農ビ

特徴・・・遠赤外線放射を抑えるための保湿剤が混入されており、温度差は他の農ビと比較してもわずかですが、積算されることで効果が現れます。

7 トンネル専用農ビ・内張り農ビ

特徴・・・トンネル用にはべたつきを抑えた換気しやすい農ビで、内張り用には透明性と保湿アップの農ビです。

8 糸入り農ビ・遮光農ビ

特徴・・・糸入り農ビは糸を入れることで強度を持たせ、遮光農ビは黒やシルバーの着色料を入れて波長を変えて使用します。

以上説明しましたが、一部JAやホームセンター等で扱っていない製品もあります。

栽培きのこ（菌床）のスクリーニング調

栽培きのこ（菌床）生産は、農地で栽培する農産物と栽培形態が異なり、国産・輸入資材を培地として調整し施設内で生産されることから農家ごとに培地原料が異なる場合も生じます。

こうした現状から、生産者単位に放射性セシウムのスクリーニング検査を実施し、本県きのこの安全確保を図ります。当面検査対象のきのこは、えのきたけ・ぶなしめじ・エリンギです。

今月号の電子版にのっている画像

春のハウス促成トマト、二重トンネルの被覆の様子が動画で見られます

電子版はあさつゆレジにて。

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
近藤普及指導員 (TEL25-7156)